

事務局からのお知らせ

● 事業実施状況報告(2月末)

		令和4年	令和5年
会員数(人)	男	1,368	1,353
	女	468	494
	計	1,836	1,847
就業実人員(人)※		1,552	1,574
就業率(%)		84.5	85.2
受注件数(件)	公共	50	59
	民間	3,545	3,470
派遣		125	142
請負契約金額(千円)		647,902	664,966
派遣契約金額(千円)		119,993	130,863

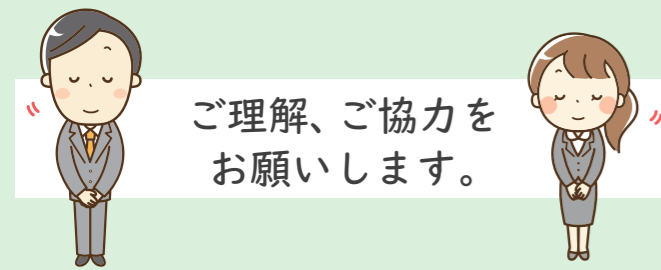
※「就業実人員」数は、請負契約及び派遣契約の就業会員の合算数値になります。

● 事務局からお願い

作業日報を郵送で提出する方は、今般郵便配達遅れが生じていることから、発注者に多大なご迷惑をおかけしています。

事例「請求金額が確定しないと支払いができない」との苦情が入ります。このようなことに対応するため、皆様には以下のことにご協力をお願いします。

- 作業日報の控えを必ずお持ちいただき、センターから提出の要請がありましたら、FAXまたはEメールで写しを送ってください。



■ 配分金支払日

<input type="checkbox"/> 3月分	4月25日(火)
<input type="checkbox"/> 4月分	5月25日(木)
<input type="checkbox"/> 5月分	6月26日(月)

※毎月の配分金明細書が必要な方は、事務局窓口へお越しください。

ゆずりはクイズ Part55

Q1、令和5年度安全標語の最優秀作は何でしょうか?

Q2、シルバーの顔で飯島さんのモットーは何でしょうか?

Q3、フレイル予防の寄稿で、社会とのつながりを失った状態を何と呼ぶでしょうか? 9文字

☆ヒント：2面、4面、5面を見てください。

◎答をハガキに書いて事務局に送ってください。締め切りは**5月12日(金)**です。正解者の中から、抽選で素敵な品を差し上げます。ご応募をお待ちしています。**会員番号と氏名**を忘れずに書いてください。

◎ ゆずりはクイズ Part54 の正解
Q1の答：2月13日
Q2の答：1,400万円
Q3の答：30年

応募数23通
うち正解者数21通でした。

センター緊急連絡先 080-1293-8569

この電話はセンター業務時間外に应答します。連絡は、**緊急なことかどうか**を考えてから電話をしてください。

ゆずりは

yuzuriha

第127号

編集・発行 令和5年4月20日
 公益社団法人 柏市シルバー人材センター
 〒277-0004 千葉県柏市柏下66-1
 柏市保健勤労会館2階
 TEL 04-7166-6681 FAX 04-7163-4150
 URL <http://kashiwa-sjc.or.jp>
 メール kashiwa@sjc.ne.jp



目次

- 2P 安全標語 / 安全だより / インボイス情報
- 3P シルバーサロン / クリーンスタッフ講習会
振り込め詐欺撃退録音機取り付け業務
- 4P シルバーの顔 / ジョブコラム
- 5P 柏市長面談 / フレイル予防 Vol.2
- 6P 植木剪定講習会 / 除草班会議
- 7P パソコン班設立10周年 / 介護サポートサービス / 新入職員紹介
- 8P 事務所からのお知らせ / 編集後記



柏東地区(永楽台班) 飯島美千子さん P4をご覧ください!!

編集後記

▶春の足音が少しずつ近づいて来ましたね▶本号が皆さんのお手元に着く頃には、桜も咲き始めていると思います▶この3年に及びコロナの影響も大分小さくなってきた感が有りますが、お互いに充分気をつけながら過ごして行かなければならないと思います▶早く皆さんと一緒に、日帰り旅行やビアパーティ・ボーリング大会などで共に笑い楽しむ時間が訪れることを願っています 【広報部会T】

ご応募ありがとうございました!



「安全は、一人ひとりの心がけ、皆で守って事故は無し」

おがね みずお
大金 瑞雄 会員



「事故事例 他人事だと済ませずに 我が身に置き換え 危険予知」

くどう ともり
工藤 誠律 会員



「手を抜くな その一抜きが 事故を呼ぶ」

なかしま みつひろ
中島 光弘 会員

今年度も、
安心・安全な就業を
お願い致します。

安全だより 安全委員会委員長 薬師寺 祝



令和4年度の事故発生状況をみますと、前年度と比べて就業中の傷害事故が増えています。それだけ痛い思いをされた方が多いということだと言えます。

手・足・腰の骨折、腱の断裂など長期の治療を要した会員もいます。

「月々わずかばかりの運の悪さを恨んだりして」いる方も、いらっしゃるかと思います。

事故を起こしてしまった場合、自分は「運が悪かった」と思いがちですが、実際にはその事故は回避可能だったということが多いのです。

そこで、事故を未然に防止するために、危険予知訓練(KYT)などの安全研修を実施しています。

危険予知訓練では、就業中における危険な状況

や、その状況から生じる事故のリスクを学ぶことで、危険を事前に察知し予防措置を講じることができるようになります。

また、会員自身の安全を守るだけでなく、周りの人々の安全にも繋がります。

安全研修は定期的で開催します。現在は事故経験者の方を対象にしておりますが、今後は参加者を広く募りたいと考えております。

センターは、安全研修を通じて会員の方々が、安全に働くことができるよう努力していきます。

インボイス制度導入に係る情報

本年10月からインボイス制度が導入されます。

当センターでは、柏市からの財政支援(一部事務費改定など)があり、センター経営の合理化(ジョブコーディネーターの人員制限、緊急電話対応の一次対応外部委託費の削減等)にも取り組み、令和5年度分の財源は、概ね確保できる見込みです。

一方、他センターでは、会員の収入からの補てん

策や広報紙の配付の廃止(広報紙はホームページで閲覧してもらう形式)をするなど、苦心惨憺して財源を確保していると聞きました。

当センターでは、数年先のインボイス対応のシミュレーションを作成し、対応を検討しています。

中には、会員サービスの低下につながる厳しい項目も検討せざるを得ません。

今後も、センターの事業運営が円滑に進められるよう最大限の努力をしてみたいです。

● シルバーサロン開催

2月13日、パレット柏にて「シルバーサロン」が開催されました。開催時間は午後1時から4時まで、開始時間前から数名の市民が待機していました。

恒例となったサロンは、入会を考えている方に対してセンターの事業活動などを「展示コーナー」で見ただけ、入会やセンターの説明、就業相談を「談話コーナー」で行いました。

当日は、日野会長以下、理事、ジョブコーディネーター、職員など8名で対応しました。来場者は、入口の掲示をご覧になった後、面談では役員やコーディネーターに熱心な質問をされる姿が印象的でした。

今回の来場者は、前回より多く30名、うち「入会説明会」にエントリーされた方が17名おられました。

また、すでに会員になられている方で最近コロナの

影響で地区別懇談会も開けなかったことから最近のシルバー人材センターの状況を聞きに来た会員もおられ、盛況のなかで意義のあるイベントでした。

パレット柏は駅から近く気軽に立ち寄れる場所です。私たちの仲間を増やすためにも会員の方も他の方々へPRをお願いいたします。

第7回 シルバーサロン

参加無料

日時 令和5年5月30日(火)
13時~16時

場所 パレット柏多目的スペースA

内容 (1)センターと会員、会員相互の情報交換
(2)市民にシルバー人材センターのご案内

お申込み 直接会場にお越しください

● 施設クリーンスタッフ講習

1月24日開催の「施設クリーンスタッフ講習」に11名が参加し、「座学」と「清掃実習」の両面での講習会がありました。講師は株式会社長谷工コミュニティ様。

はじめに、清掃作業のポイントをDVD視聴で確認、教材「清掃の手引き」での座学講習、その後、3つのグループに分かれて「清掃実習」が行なわれました。

洗剤の種類と特徴、ガラス拭き掃除、スクイジー、タオル、ホーキ、モップなど道具の使い方など、「安全第

一」「顧客対応」「作業効率」の3つの重点項目にそって講師から丁寧な指導を受け行なわれました。

午前10時から午後4時までの長丁場ではありましたが、講師の専門的な清掃テクニック、道具の持つ特徴や「綺麗になるコツ」を教わり受講者全員が感心していました。実習時の講師の方のユーモアも加わり参加者の笑顔が多く見られた講習となりました。今回の講習で参加者の清掃テクニックも一層の向上が期待されます。



● 振り込め詐欺退録音機取り付け業務

柏市(防災安全課)から、「振り込め詐欺退録音機取付業務」を受注しました。

業務は、市内の高齢者宅の電話機に録音機を取り付け、「電話de詐欺」の防止に役立てるものです。

会員は、いずれも電話機器の取付に関する経験や知識を持つ方々で、センターで研修を受けた精鋭メンバーです。



さて問題です!
「電話de詐欺」に遭わない1番の方法は何でしょうか?
答えは、「詐欺の犯人と直接話をしないこと」です。

その対策の一環として、「留守番電話の設置」、「ナンバーディスプレイサービス」、「警告・通話録音機能付き電話機の活用」が大変効果があると、警察署員から伺いました。

地域社会への貢献は、
柏市シルバー人材センターが目指す活動です。

シルバーの顔

● 私とシルバー人材センターとのきっかけ

通信系の会社を退職後、千葉県「生涯大学校」へ入学したとのこと。ご承知の方も多いと思いますが、生涯大学校の目的は、高齢者が新しい知識を身につけて広い仲間づくりや生きがいづくりを図ることと伺っています。そこでのクラブ活動のクラスメートを通じてセンターの存在を知り、急に身近に感じたのがきっかけだそうです。今は「柏シルバー大学院」に属しているとのこと。



柏東地区
(永楽台班)
飯島 美千子さん

● これが大切、私の働きがい

仕事の経験は「パレット柏」の受付や「近隣センター」の窓口業務で、いずれも利用者との接点があり、どの仕事でも苦労はつきものでした。

飯島さんのモットーは、「すこし働き、少し学んで、少し遊ぶ」だそうです。生涯大学校の部活で体験した「俳句」と「社交ダンス」は今でも続けており、時間を調整しながら楽しんだ分仕事にも熱中できるようです。職場のお仲間に向ってもその責任感ある仕事ぶりは、「働く」「学ぶ」「遊ぶ」のバランス感覚が良いと感じました。シルバー人材センターでも理事として女性部会長として良き相談相手になっておられます。



● 趣味とご家庭

趣味は前述したとおり、今も継続中とのこと。入会まもなくは「安全標語」で最優秀を獲得。家庭では、時々遊びに来る可愛いお孫さんが4人おられ何かとお忙しいようです。



ジョブ コラム

JOB column

49歳と11カ月の頃、私は前職で会社への出向・転籍の辞令を受けた。それと同時に2週間の休暇が付与され、自宅和室でゴロンと横になり天井を眺めて過ごすという従前とは全く違う日々を経験した。

そんなある日、ふと考えたのが趣味についてだった。あなたのご趣味はと問われれば読書と答える。ところが、実は本などほとんど読んだことがない。年間で数冊がいいところ。ならば50歳からは本を読んでみよう。そうすればいままでの嘘にまみれた人生を少しは糊塗することが出来るのかもしれない。天井を見上げる日々で自分なりのルールが頭の中に出来上がった。

即ち、①まずは年間100冊読む、②古本ではなく高価な新刊本を購入、③持ち運びやすい文庫本を購入、④同

じ書店では購入しない、⑤ブックカバーを蒐集、と。結局は本を読むのではなく購入する方に主眼は移ってしまった。

而して16年が経過。それでも57歳までは年間100冊をクリア。その後はやや自然体となっているものの、この16年間で2100冊購入、1400冊読了。従って700冊の文庫本が未読のまま寝室の枕元に積み上げられている。勿論知識面で自分に厚みが増したという実感も殆ど無い。それでも何故か楽しい。観光地を訪れるわけでもなく、ただ街並みを眺めつつ書店を見つけて入る。ここ数年はどこに書店があるか下調べをするようになったものの、毎回知らない町をむやみやたらと散歩する。66歳と2カ月の現在、きっと趣味とはそんなものと自分なりに納得している。

【ジョブコーディネーター 伊藤】

● 太田柏市長と面談

2月2日、日野会長、高橋副会長、町田広報部会長、山口常務理事兼事務局長、松田次長、川口総務課長が太田柏市長と面談しました。

日野会長から、「会員数と契約金額」「新規受注振り込み詐欺撃退録音機取付業務の取組み」「インボイス制度導入の影響と対応」などについて説明を行いました。

太田市長から「柏市に貢献していただく高齢者が増え、健康年齢が拡大するよう期待しています」とのメッセージをいただきました。



左から、町田理事、高橋副会長、日野会長、太田市長



フレイル予防 Vol.2 「脳の健康に大切なこと」

こんにちは。柏市地域包括支援課です。前号では、認知症の多くは、加齢に伴い誰もがなり得る脳の病気であり、病気が進行すると記憶力や理解力などが低下し生活に支障をきたすこと、一方でいち早く予防に取り組むことで、認知症になっても進行が緩やかになる可能性もあることなどをお話しました。今号では、いつまでも脳を健康に、元気に保つための予防法についてお話しします。

みなさんは、「ソーシャルフレイル」という言葉をご存知ですか？「フレイル」とは、加齢によって心身の機能（筋力、認知機能、社会とのつながりなど）が低下した状態をいい、健康と介護を要する状態の中間に当たります。中でも特に社会とのつながりを失った状態を「ソーシャルフレイル」と呼びます。年齢を重ね友人や仲間と会うことが減り、外出の機会が少なくなると孤立しがちになります。これはフレイルの入り口とな

り、口腔機能の低下や食生活に悪影響を与えるほか、認知機能の衰えにつながり悪循環を引き起こします。このことから、友人や仲間と一緒に地域のボラティアに参加したり、自分の空き時間を使ってプチ就労をするなど社会とのつながりを保つことで、フレイルを進行させないことこそが認知症予防につながるのです。

また、自身の住む身近な地域においてかかりつけ医を見つけ、定期的に健診を受けることで、早期に病気を発見し、必要な処置を講ずることも重要です。これらのことを継続的に行うことで、年齢を重ねても自分らしく脳をいつまでも健康に保っていきましょう。気がかりなことが生じた際は、お住まいの近くの地域包括支援センターにご相談ください。

↓ 地域包括支援センターのホームページはこちら

柏市 地域包括支援センター

検索

センター就業会員が認知症を疑われるケースが見られるとの情報が入っています。

事例① 就業交代したことを何度も忘れてしまう。

事例② 以前就業していた場所に行き、就業しようとする。

事例③ ジョブコーディネーターと面談したことや、注意されたことを忘れてしまう。



認知機能は、加齢とともに低下する傾向にあります。事例のようなことや、類似のことが見られたときは、就業の終了(就業規程§12)も一つの対応策と考えます。

● 技術向上へ 植木剪定講習会開催

2月15日、午前と午後、千葉大学柏の葉キャンパス苗木園で植木剪定講習会を開催しました。

午前の部は初級者向け、午後は中級者向けでした。講師は昨年と同じく千葉大学の都市環境園芸農場造園担当の本間雄二氏にご指導いただきました。

当日は植木班の内山班長を含め、計17名が参加し午前の部は「ツバキ剪定」と「クチナシの枝透かし剪定」、午後の部は「五葉松の枝透かし剪定」と「モッコクの弱剪定」、「イヌ楨の枝透かし剪定」でした。

枝葉のついた小枝で剪定の基本と注意点、「鉋」の使



本間講師による指導

い方や樹木の形の造り方の指導があり、実技演習では参加者それぞれがチャレンジしました。高い樹木は脚立を使い、一本の樹木を参加者全員が協力して仕上げました。皆さんの顔は真剣そのもので他の会員の意見を聞きながら、熱心に受講していました。

終わりに、本間講師から「剪定のポイントを踏まえた道具の取扱いに留意を」とのコメントをいただき、剪定の難しさやコツを身につけられた研修でした。

今回の講習会は、一日中寒風が吹くなかでしたが学んだことが今後お客様の庭で生かされることに期待が膨らみます。



参加者全員で五葉松を剪定

● 除草班会議

除草班会議が3月1日センター大会議室で開催されました。

会議は、高橋班長の挨拶、担当の和田主任が司会進行し、議事が進められました。

今回の議題は、「作業件数」、「安全作業」、「刈払機講習会」、「発注者からの苦情対策」、「班名簿」について、班員総勢15名で熱心な審議がされました。

「安全作業」では、全国レベルで大事故は見られないが、ナイロンコードを使用しているの飛び石事故は多く発生しているので要注意。

また、熱中症対策では、「作業時間帯を午前中に絞る」や、「休憩時間を増やす」などの意見が出て、空気が抜ける作業服の着用は、職場での災害ポテンシャルを考えた安全対策で有効だとの話合いがありました。

「発注者からの苦情」事例では、「作業日の連絡で、発注者が高齢者のため電話に出てくれない」など、課題の情報共有を図り、対応について議論しました。

その他、燃料費等の物価高騰に起因した、受注単価の改定の要望があり、事務局で検討する。引続き、発注者の理解を得られよう努力するとの回答がありました。

また、これから繁忙期に入ると、人員の不足が懸念されます。「安全第一」は勿論ですが、各作業班間での一層の連携が必要であり、各会員の協力をお願いしたいとのこと。



● パソコン班10周年

平成25年4月にパソコン訪問支援サービスを開始してから10年経過しました。お客様宅にお伺いし、パソコンの初期設定、プリンター接続、年賀状作成、トラブル相談などのご要望は、初年度班員8名、受注は55件でしたが、1月末現在の累計は1623件に達しました。偶数月に定例班会議を行い、自分の仕事は自分で開拓の精神で広報活動に努め、案内チラシの作成、ポスティング、近隣センターにチラシ配架とポスター掲示、広報かわへの案内掲載などが定着しています。

本事業を行い良かった点は、パソコンに関する種々の支援スキルが向上したこと、パソコンを通じて知り

合え、その人の考えに触れられる希有な機会が得られたこと、パソコンが動くようになった時のご依頼者さんの笑顔が見られて楽しいことなどです。

パソコン班開設の1年後にWindows XPのサポートが終了し、以降、Win7から最新のWin11に至る変遷やソフトの変化に追われる苦労をしつつ、追い着くために励み、班員6名、奮闘を続けています。寄稿 日野良英



介護サポート サービス情報 ④

「介護サポート」の就業会員の体験などをシリーズでお届けしています。皆さんの参考としていただければ幸いです。
(取材 女性部役員)

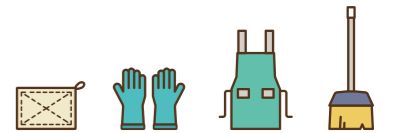
- 内 仕事の内容
- 苦 苦勞したこと
- 始 仕事を始めるのに不安だったこと
- 楽 楽しいと思うこと
- 慣 慣れるのに要した期間
- 続 就勞期間、継続するためのポイント

体験1

- 内 高齢者施設での朝食の調理、配膳のお仕事です。週4日7:00~9:15、一人で11名の朝食を準備しています。
- 苦 入居者様をお待たせする事なく料理を提供する事です。時間と共に手際よく調理できるようになりました。
- 始 とにかく料理することが大好きなので全く不安はありませんでした。
- 楽 料理を通して入居者様とふれあい、お元気になられていく様子を見られる事です。食べ残しが多いとマネージャーに報告し、自分もお声がけして、「体調が良くなって少し肉が付いたよ」と言われると家族のように嬉しいです。
- 慣 以前、喫茶店を開いていて人と接することが好きでしたので直ぐに慣れました
- 続 6年が経ちました。娘夫婦と孫二人の五大家族で暮らしていますが、ここでも料理担当です。いつまでも元気で働けるように散歩をしたりして健康維持に心掛けています。

体験2

- 内 3階建ての高齢者施設で、食堂・廊下・トイレ等の清掃とゴミ出しを行っています。2名でシフトを組んでおり、週4日・1日4時間(9:00~14:00休憩1時間含む)就業しています。
- 苦 利用者様と接する時の会話は挨拶程度に留めるよう心がけています。
- 始 今まで経験した事のない仕事で不安もありましたが、先輩がいらっしゃったので助かりました。
- 楽 一人仕事なので、対人関係等を気にせずに集中できます。
- 慣 1年ぐらいで、ペースが掴めるようになりました。
- 続 就業期間は5年が経過しました。幸いにも病気やケガは仕事の日に重ならず、コロナ禍の時期以外は順調に就業できています。



柏市シルバー人材センター 新入職員のご紹介

JOB Coordinator
ジョブコーディネーター

やじま たかゆき
矢島 孝行
(南部担当)



ジョブコーディネーターの新井様、お疲れさまでした。